

日用惣菜俎（両面折本）
 不時珍客即席庖丁

日用惣菜俎不時珍客即席庖丁 天保7年

石岡市立ふるさと歴史館 第22回企画展

身近な文化財 — 石岡市寄贈資料展 —

日用に飲食片時も放るをくじ節を守り奢侈をき費ふきを
 専として日の惣菜是等の事少くすぬを子孫をんじやう
 富貴の基を開くべし。さるに世に料理に書多くし。美味
 珍膳のこんさてみたる事うじ。今亦惣菜の献立にあすまを
 婆が勞を助け釜の前のお三女郎が相談相手あつかうの組合
 せり此書は仍く庖丁まじりといふ

五谷村 小河原常有門

令和2年7月1日(水) ~ 10月4日(日)

開館時間 午前10時~午後4時30分

月曜休館 (祝日の場合は翌日) 入館無料

石岡市立ふるさと歴史館

石岡市総社1-2-10 石岡小学校地内 Tel: 0299-23-2398

石岡市立ふるさと歴史館 第22回企画展
身近な文化財 ―石岡市寄贈資料展―

◆目次

はじめに	1
「衣」	2
「食」	8
「住」	11
くらしを支えた娯楽・医療	15
おわりに	19

◆例言

本冊子は、令和2年(2020)7月1日～10月4日を会期として開催する石岡市立ふるさと歴史館第22回企画展に際して作成したものです。

展示及び本冊子の編集・執筆は、石岡市教育委員会 文化振興課(竹内智晴)が行いました。

展示にあたっては以下の文献をはじめ、多くの文献を参考といたしました。

石岡市『石岡市史下巻』1985年

八郷町『八郷町史』2005年

近江礼子「新治郡瓦谷村小河原家の蔵書と臼井教美の周辺」『茨城史林』第39号 p. 31～p. 56, 2015年

◆謝辞

本展示は以下の方々のご協力によって開催することができました。心より感謝申し上げます。

仲之内町, 上曾北之内地区

小河原 友美, 永井 敬司, 新田 衛

はじめに

いしよくちゅう
衣食住

ご来館された皆さんも年に1度は大掃除をされるかと思えます。身の回りを整理することはとても大事なことです。しかしながら、そうして処分される道具や本の中に貴重な資料が紛れていることがあります。私たちが使っている道具、読んでいる本、これらは時が経ち振り返ってみると、当時どのような生活を送っていたのかを記録した貴重な資料となっているのです。

石岡市では地域の人々の暮らしを記録し、後世に伝えていくために、昔の道具類や古文書・古書籍といった資料を、文化財として寄贈していただいています。

今回は近年石岡市に寄贈された文化財を紹介したいと思います。どれも市民の皆さんの下で長年残されてきた資料です。これらの資料を通して、身近な歴史を知っていただければ幸いです。



コカ・コーラ、スプライト 500ml 瓶 1970年代 平成28年度寄贈資料
これもくらしの歴史を教えてくれる立派な文化財です。

100年前の身だしなみ

衣食住
いしよくぢゆう

まずはおよそ 100 年前、明治 41 年（1908）に発行された雑誌、『流行 第 5 年 3 月号』を見てみましょう。

流行は白木屋呉服店から発行されたファッション誌で、服の生地や化粧品といった商品紹介や、服装や化粧法に関するコラムなどが掲載されています。八郷地区のお家に残されていました。

服装のコラムを見てみると、「男子は和服よりも洋服を着用する方、外見上、^{じつよう}實用上可なるが如く思へり、然れども洋服は其代價^{だいか}廉^{れん}ならざるを遺憾とす」「廉價^{れんか}にして、着て心地よく裁縫したらば、現在よりももつと流行して、男子の常服となる日も到来せん」とあります。明治維新から 40 年近代化を進めましたが、まだまだ洋服は珍しい存在だったことがわかります。

化粧のコラムは、女形俳優として活躍した初代^{きたむらろくろう}喜多村緑郎が書いています。「目をパッチリする法」や「書き眉にて自然の如く見せる法」など現代にも通じるようなコツもあれば、「卯之助あぶら」という^{びん}鬢付け油に関する項目もあります。ヨーロッパから輸入される化粧品などから徐々に影響を受けてはいますが、「衣」の文化に関しては明治維新後も西欧化はゆっくり進んだことがわかります。

この資料から、100 年前の八郷の人々が雑誌を通して都市部の流行に触れていたことがわかります。これらのコラムや広告を読み、化粧の技術を磨いたり、珍しい洋傘に憧れたりしたのでしょう。日常生活の 1 コマが垣間見えるおもしろい資料です。

学習院女子大学を始り日本女子大の生徒方は高尙なる素顔の美
 を現はし給ふにクラブ洗
 粉を以て最も永久的實用
 品なりと賞せられ愛用願
 る盛んなり今や又女子大
 學校の櫻楓會に於ても日
 本第一のクラブ洗粉を販
 賣せられつゝあり

女子大學校と高尙なる化粧品

白水仙 免類店 其他各化粧品店にあり

流行 第5年3月号 化粧品・生地 of 廣告

流行座談
 當時の服飾文化が書かれています

衣裳と色合
 衣裳の色合は、その人の容姿、年齢、職業、季節などに合わせて選ぶことが大切です。

流行 第5年3月号 流行座談 當時の服飾文化が書かれています

品名	内容
...	...



これは、皮膚科に於ける重要な薬材である。其の性質は、乾燥した葉を煎じて飲むか、あるいは葉をすりつぶして患部に塗る。皮膚病に効果的である。...

化粧方法に就

化粧の心得は、自然な美しさを追求することにある。過度の化粧は、かえって容姿を損なう。肌の調子を良くし、清潔に保つことが最も重要なポイントである。...

品名	内容
...	...

皮膚科の診察は、患者の訴えを聞き取り、皮膚の状態を観察する。その上で適切な診断と治療を行う。現代の皮膚科では、最新の検査機器を用いて病態を詳しく調べることが可能である。...

化粧品の選び方としては、肌のタイプや季節による変化を考慮することが大切。また、品質の良い化粧品を選ぶことで、肌に良い影響を与えることができる。化粧品の成分表もよく読んでみることをおすすめする。...

品名	内容
...	...

皮膚科の検査方法は、視診、触診、皮膚鏡検査などがある。皮膚鏡検査は、高倍率の顕微鏡を用いて皮膚の表面構造を詳しく観察できる。また、皮膚の深部を調べるために行われる生検も重要な検査法の一つである。...

化粧品の効果は、個人の肌質や使用方法によって異なる。正しい使用方法を守り、継続的に使うことで効果が得られる。また、化粧品の保存方法も正しいことが、その効果を発揮させるために重要な要素である。...

品名	内容
...	...

皮膚科の治療には、薬物療法と外科療法がある。薬物療法では、塗り薬や飲み薬を用いて炎症を抑え、皮膚を正常に戻す。外科療法では、手術によって皮膚病巣を除去する方法がある。...

皮膚科の予防法としては、日焼け止めをこまめに塗ることや、紫外線を避けることが大切。また、清潔なスキンケアを行うことで、皮膚病の発生リスクを減らすことができる。定期的な皮膚科受診も重要な予防策である。...

和服から洋服へ

衣食住
いしよくぢゆう

「衣」に関する資料から大正期と昭和戦後期のものを見てみましょう。

かていひゃっかふじんちようほうじてん

『家庭百科婦人重宝辞典』は大正12年(1923)に発行した雑誌主婦之友の付録です。裁縫や料理などの一般的な家事のほか、薬草の煎じ方や家庭に関する法律など様々な内容が書かれています。衣服の扱いの項目を見てみると、和服と洋服の扱い方が並列して書かれています。明治41年から15年で洋服が日用品になった変化が見て取れます。

わふくさいほうどくしゅうしょ

『和服裁縫独習書』は昭和29年(1954)に発行された雑誌婦人倶楽部の付録です。その名の通り和服の裁縫の方法が書かれています。表紙には「洋裁の心得ですぐ縫える秘訣」とあり、また中を見てみると「普段着には今後洋服が一層広く用いられ、和服は晴着に残ることが予想されます」と書かれています。明治41年からおよそ半世紀、和服と洋服の立場が逆転し、洋服の方が日用品の主流になったことがわかります。

このように①まだ洋服が一般化していない明治期、②普及し始めた大正期、③洋服が日用品となり和服との立場が逆転した昭和戦後期、という流れが浮かび上がってきます。「衣」の文化が変化していく各段階を押さえており、貴重な資料といえます。



家庭百科婦人重宝辞典 和服と洋服の扱いが並列して書かれています



和服裁縫独習書 洋服が普段着として定着し和服と立場が逆転します

戦後復興期のミシン

いしよくちゅう
衣食住

展示資料のブラザー社製足踏み式ミシンは平成 28 年度に石岡地区の方からご寄贈いただきました。

現在はプリンターなどで有名なブラザー社ですが、明治 41 年（1908）の創業時は「安井ミシン商会」という輸入ミシンの修理会社でした。昭和 7 年（1932）に家庭用ミシンの国産化に成功するなど、日本のミシン業界をけん引してきた存在です。

本資料は戦後復興期の昭和 20 年代から 30 年代に購入され使用されたものと推測されます。家庭用ミシンは太平洋戦争中には製造が禁止されていましたが、戦後は生産が再開され多くの家庭で購入されました。これは普段着の裁縫に使う目的もありますし、また苦しい家計を助ける内職として繊維製品の生産が盛んに行われていたという背景もあります。石岡においても、戦後復興期の各家庭で普段着の作成や内職にミシンを使い、苦しい時代を乗り越えました。現在では衣服は買うことが当たり前になり、ミシンを日常的に用いる家庭も少なくなりました。変わりゆく文化を記録していくためにも、これらの道具を保存していく必要があるのです。



←八郷町史には昭和 29 年に結婚された方が嫁入り道具としてミシンをもっていった事例が載っています。裁縫技術は重要な能力の一つでした。

江戸時代のレシピ本

いし
よく
ぢゅう
衣食住

次は八郷地区で江戸時代に使われていたレシピ本を見てみましょう。

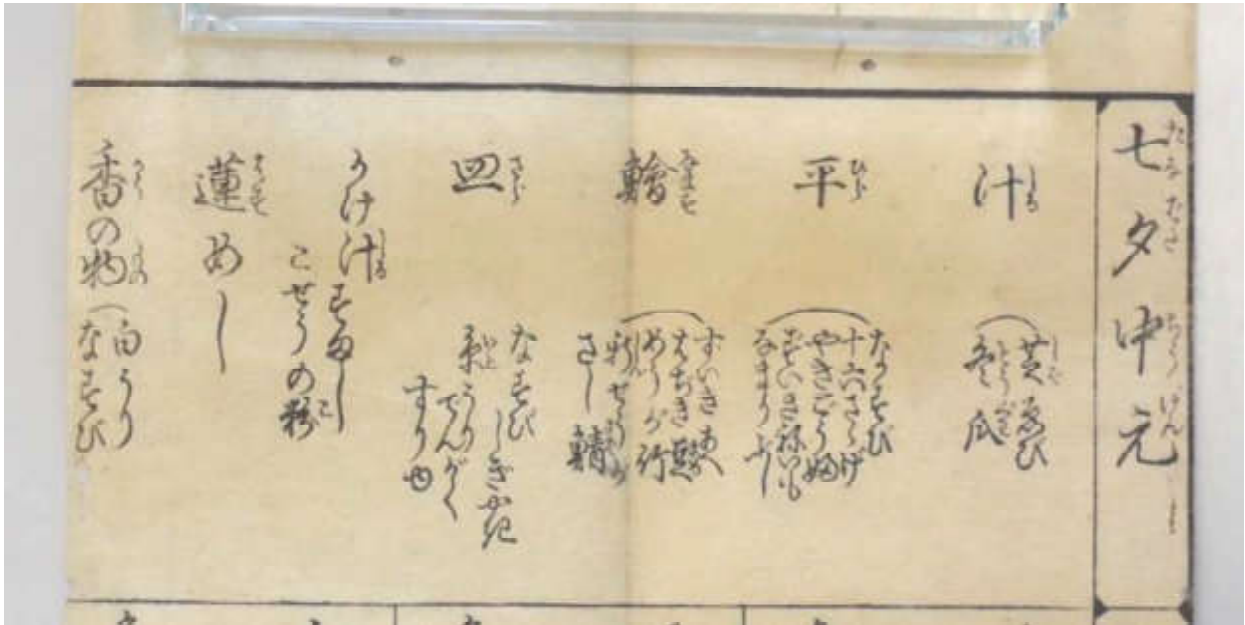
資料名は『日用惣菜 俎 不時珍客即席包丁』、天保 7 年（1836）に刊行された江戸時代後期のレシピ本です。お正月や雛祭りといった行事の際に用意する料理の献立が書かれており、その特徴は「即座に出来る調味をしめし」「奢おごりをはぶきついえ費なきもっぱらを専もっぱらとし」ている点です。つまりお手軽でありあまりお金のかからない料理の本なのです。

寄贈資料は残念ながら大半が失われてしまっており、正月・雛祭り・端午の節句・七夕の部分しか残っていませんが、国文学研究資料館などに全体がそろったものが現存しており、全容を知ることができます。それによれば、行事の料理の後ろには日常のおかず、味噌や煎り酒の作り方、急な来客をもてなす料理などが載っています。これ一冊で毎日の食事の用意がずいぶん楽になったのではないのでしょうか。

江戸時代の人々にとっても毎日の献立を考えることや、急な来客があった時のおもてなしはそれなりの負担だったのでしょう。できるだけ簡単に、それでいて失礼のない程度に見栄えのする料理を作りたい、江戸時代も現代も人間の考えることはあまり変わっていないということがわかります。

七夕のおもてなし料理

いしよくちゅう
衣食住



日用惣菜俎不時珍客即席包丁の七夕料理を見てみましょう。

献立は料理名が書かれておらず不明な部分もありますが、みそ汁、煮物、刺身・酢の物、焼き物、吸い物、まぜご飯、漬物の7品となっていると思われます。八郷町史によれば、昭和30年代以前の農家の食事は麦飯・みそ汁・漬物が基本で、そこに昼夜はおかずが1品つきました。使う材料は自分で作っている野菜などが主であり、買わないといけない豆腐や魚はぜいたく品でした。普段の食事と比べると、おもてなし料理は品数も多くとても豪華なものであることがわかります。

しかし、そこは手間とお金の節約料理を紹介した本。節約の工夫も見られます。シバエビや焼き豆腐といったぜいたく品も使いますが、ナスを数品に使ったり、魚の中でも比較的手に入りやすい刺しサバを使うなど随所で手を抜けるようになっています。

八郷地区の七夕はこれらの料理を友人や家族と囲み楽しんだのではないのでしょうか。

地域で使った食器たち

いし
よくちゅう
衣食住

平成 30 年度に石岡地区の仲之内町から，令和元年度に八郷地区の上曾北之内区から，それぞれ地区で使用していた食器類をご寄贈いただきました。

現在では結婚式場や斎場の利用が一般的ですが，かつては自宅で冠婚葬祭を行うことが普通でした。これは個人よりも家や地域の関係が重視されたためです。親戚や近所に家族を紹介する，家から送り出す，そのために自宅で行いました。現代では仕事や友人など個人の関係が重視されることや準備の負担が大きいことから，自宅で行われることは少なくなりました。

本資料は地区の共有品として結婚式や葬儀を行う家で使用されていました。仲之内町，上曾北之内区ともに食器が収納されている箱や袋の墨書きから，古いものは大正年間に購入されています。地区の方によれば，仲之内町では昭和 43 年ごろ，上曾北之内区では平成 19 年ごろまで使用されていたとのことで，地域の冠婚葬祭文化が変化した時期を教えてくれる貴重な資料です。



←小井戸公民館の看板

1955 年に提唱され日本各地で行われた「新生活運動」は，冠婚葬祭の費用が家計を圧迫しているとの考えから，その簡素化を推進しました。石岡にもその痕跡が残されています。

□□

家の運気を決める家相学

衣食住
いしよくぢゅう

八郷地区には国指定史跡の佐久良東雄旧宅や国登録有形文化財の大場家住宅・坂入家住宅などが残されており，農村部の住文化を今に伝えています。では，それらの家を建てる時に，当時の人々はどのようなことを気にしたのでしょうか。

『かそうすかい家相図解』は寛政元年（1789）に刊行されたかそうがく家相学の書籍です。こんな土地にはこんな建物という参考例を載せた，いわば江戸時代の住宅カタログです。

家相学とは土地や間取りなどから吉凶を考える易学の一つです。似ているものとして大陸由来の風水思想がありますが，家相学はその風水を基礎に陰陽道などを組み合わせて作られた日本独自の学問になります。庶民には18世紀末から19世紀初頭ごろに広まったとされています。江戸時代は現代と比べ，はるかに占いや神仏の影響力があつた時代です。家づくりにおいても，災害や疫病といった凶事を家に寄せ付けず，健康で豊かな生活を送れるような運気を呼び込む形づくりが考えられるようになりました。家相図解はそのような江戸時代の人々が生活していく上での物の考え方を教えてくれる貴重な資料です。

家相図解を寄贈してくださったお家は，江戸時代に上位の村役人である割元名主を務められていました。割元名主には村のまとめ役として広範な知識が求められました。家相学もその内の1つだったのでしょう。家の建て替えで悩む村人にアドバイスを与える，割元名主の仕事が垣間見えます。

江戸時代の家づくりのポイント

いしよくちゅう
衣食住

家相図解から当時の人々が気にしていたポイントをいくつか見てみましょう。

まずは土地選びです。一番いいのは平らな土地です。真ん中が高く周囲が低い土地は水難、逆に真ん中が低い土地は火災の心配があります。土地の形は様々でそれぞれ長短がありますが、これは建物の配置などの工夫で運気が変わるので、バランスを見て決めましょう。

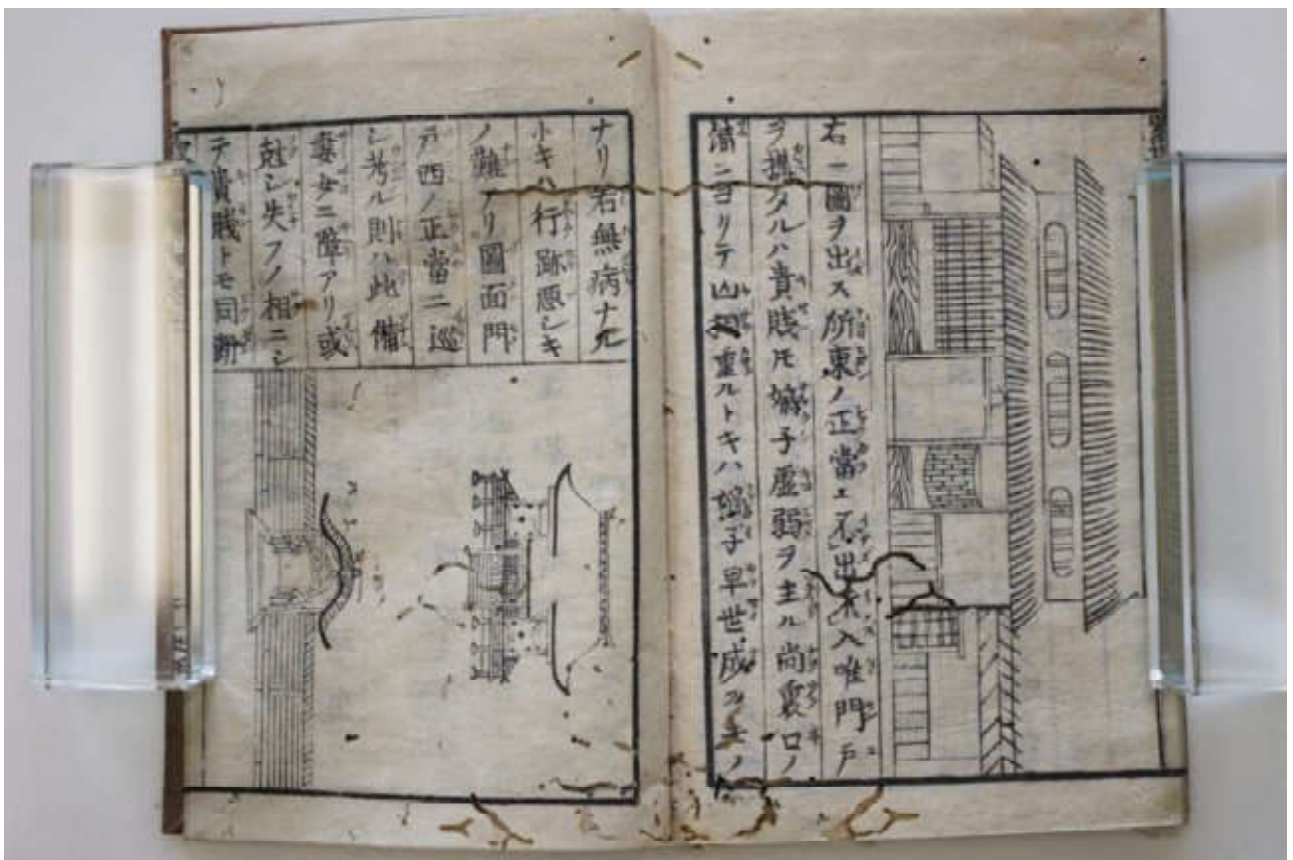
次に門です。真四角な土地に建物 1 棟を建てると考えると、南向きの門が最高で、西向きは財産に乏しくなるそうです。ただし、道や隣家などの周辺環境によって運気は変わるとのことです。門は建物と比べて立派すぎると縁起が悪いのでほどほどにしましょう。材料にもこだわらないと相続などの問題が起こるそうなので注意が必要です。

建物はどうでしょうか。基本は四角く作るべきだそうです。間口より奥行を長くしましょう。反対にすると、短期ではお金持ちになりますが後々勢いがなくなり引っ越すことになるそうです。間取りでは、普段よく使う部屋を 4 畳半にすると、物事がうまくいかないのでは注意が必要です。4 畳 6 畳や 5 畳 6 畳の続間を作ると運気が上がるのでおすすめです。

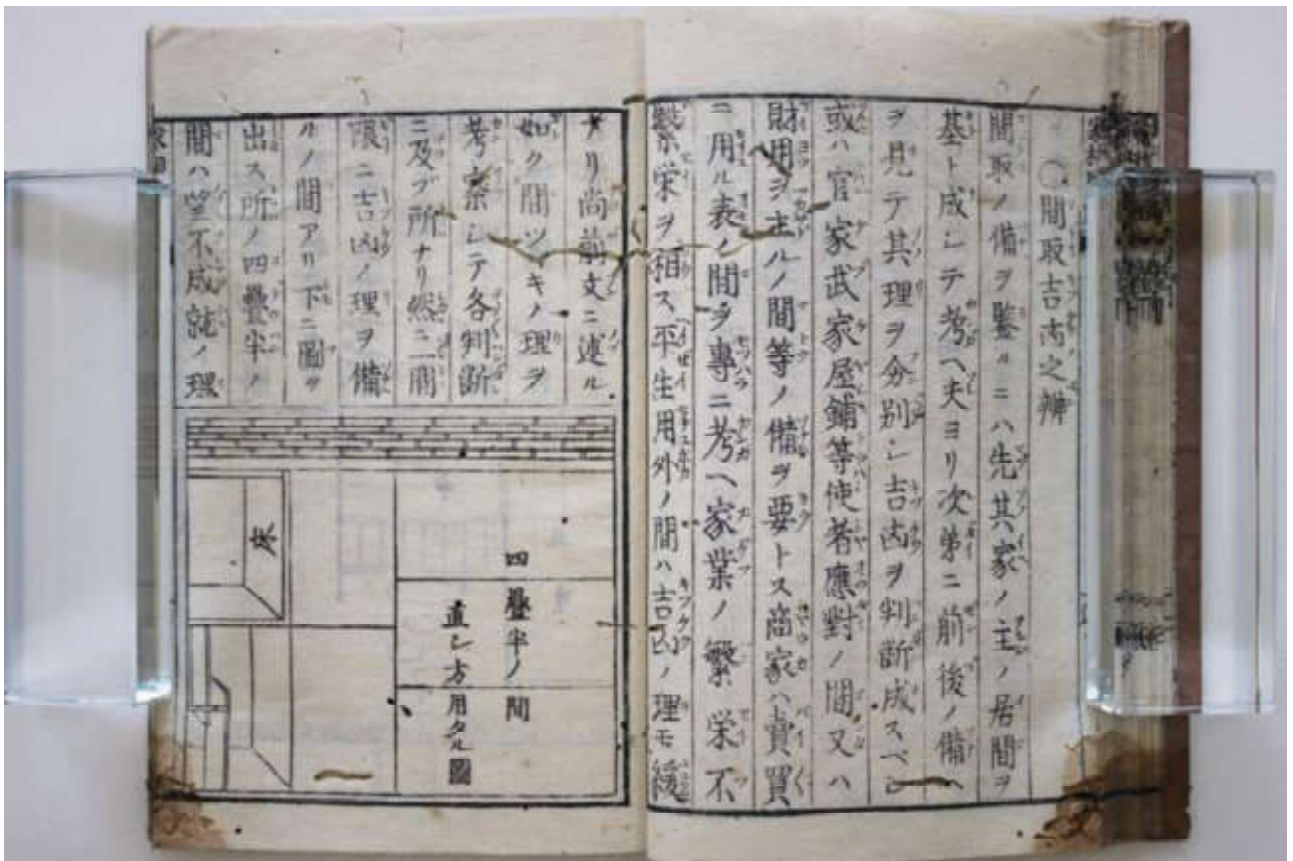
江戸時代の人々はこれらのことを考えて家づくりを行っていました。皆さんも家を作る際の参考にすると、少しいい運気が巡ってくるかもしれませんよ。



家相図解 まず土地の吉凶を考えます



家相図解 次に門などの建物の配置や大きさ、材質などを考えます



家相図解 間取りを決めて家を建てます

少し昔の日常の楽しみ

衣食住
いしよくぢゆう

現代を生きる私たちは様々な楽しみを日々の糧にして生活しています。今から150年前、100年前の人々も同様で、おまつりや遠方の寺社への参拝などの行事を楽しみに暮らしていたことが八郷町史に書かれています。

今回はもう少し日常的な娯楽についての資料を紹介します。

あこうぎしでんいっせきわ
『赤穂義士傳一夕話』は嘉永7年（1854）の刊行で、いわゆる

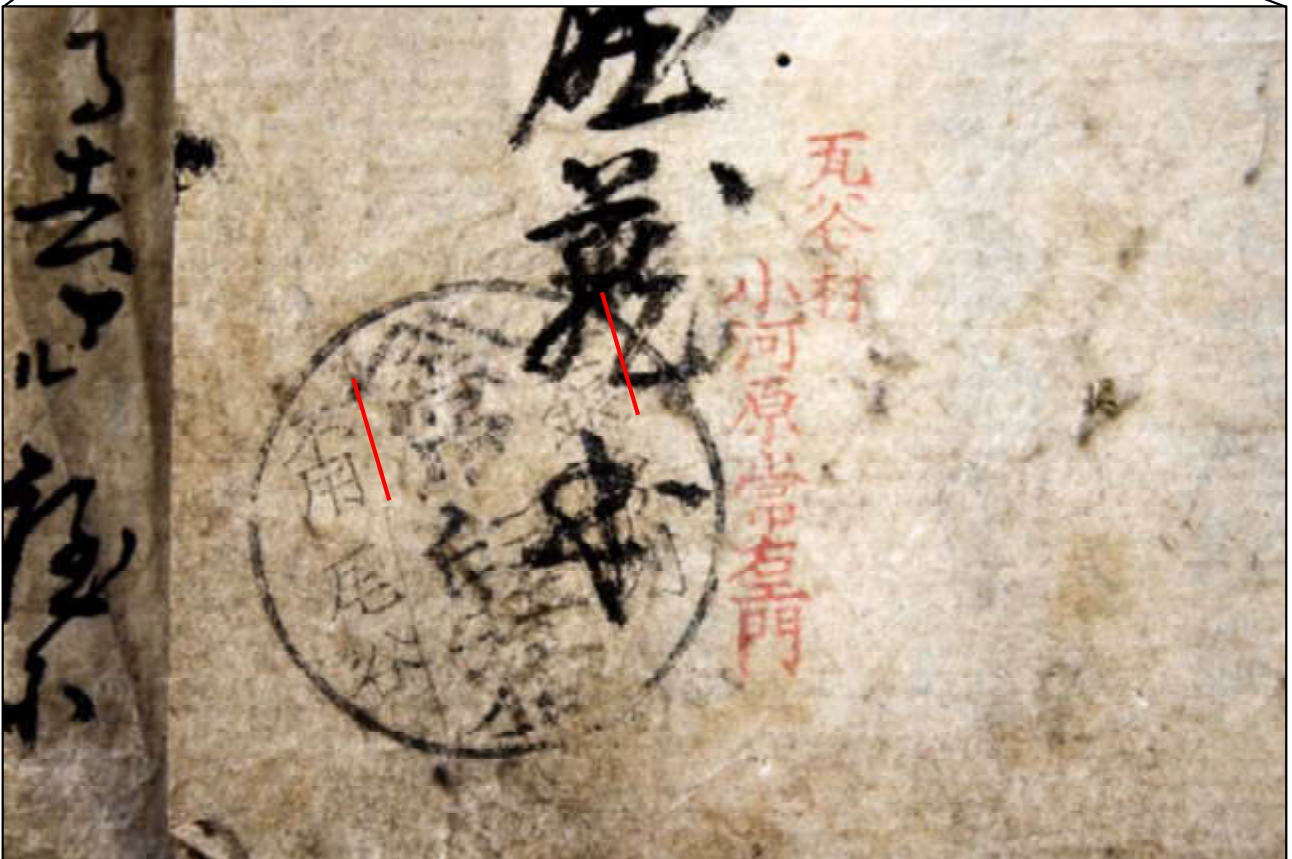
「忠臣蔵」の関連作品です。随筆家・やまざきよしげ山崎美成の作で「くらのすけ内蔵助討入の装束をあつらえる話」などの逸話集です。休日の楽しみとして読んだものと思われる。

また、本能寺の変をモチーフにしたえほんたいこうき『絵本太功記』や織田信長・ぎおんさいれいしんこうき豊臣秀吉の『祇園祭礼信仰記』などの浄瑠璃に関する写本も残されています。浄瑠璃は三味線の伴奏に合わせて物語を読み上げる文学・音楽作品で、庶民の娯楽として江戸時代に大きく流行しました。この写本は読み物ではなく、練習に使ったものと思われる。日頃の趣味として、熱心に稽古に励んだのではないのでしょうか。少し昔の趣味の世界がわかるおもしろい資料です。



←赤穂義士傳一夕話 第三巻

内蔵助討入の装束をあつらえる話
元禄赤穂事件を題材とした「忠臣蔵物」の一つで、主人公の大石内蔵助をはじめ様々な登場人物の逸話を集めたサイドストーリー集です。



繪本太功記

金銀不用とあることから、近隣住民に無償で貸し出していた可能性が考えられます

江戸時代の地域医療

衣食住
いしよくぢゆう

江戸時代の人々も生活していると様々な病気やケガを負い、医療的なケアが必要になります。そんな時には現代と同様お医者さんに頼りました。では当時どのような医療が行われていたのでしょうか。八郷地区の寄贈資料から見ていきましょう。

『傷寒論』は江戸時代の実験主義漢方医学派、いわゆる古方派こほうはが重視した漢方医学の古典であり、漢方薬としてなじみ深い葛根湯や甘草湯の出典として現代まで影響する医学書です。手術などの外科技術が未成熟だった江戸時代において、外部からの病状観察と薬の処方しょうかが治療法の柱でした。その代表的な教科書が傷寒論です。八郷地区においても傷寒論を基礎に患者の診察と薬の処方が行われたものと推測されます。江戸時代の八郷の人々も風邪には葛根湯を処方されていたのではないのでしょうか。

一方で古典的な漢方に限らない医学書も見られます。『漫遊まんゆう雑記』は明和元年（1764）に永富独嘯庵ながとみどくしょうあんによって書かれました。

独嘯庵は古方派の代表的な医者である山脇東洋やまわきとうように学び、西洋医学にも興味を示し取り入れた人物として知られています。漫遊雑記は独嘯庵が長崎で西欧医学を学んでいた時の記録であり、傷寒論など従来の漢方では対処できない症例に、西欧医学を取り入れて対処法を考察しています。江戸時代は杉田玄白すぎたげんぱくの解体新書かいたいしんしょなどで知られる通り、西欧の知識で日本の医学が飛躍的に進歩する時代です。地方にあたる八郷でも書籍を通して新たな医学知識が輸入され、地域医療に活用していたものと思われます。



傷寒論

発熱・背の強張り・発汗・悪寒などの症状が出ると、葛根湯が処方されました



漫遊雑記 長崎でオランダがもたらした治療を試した患者の記録が書かれています

おわりに

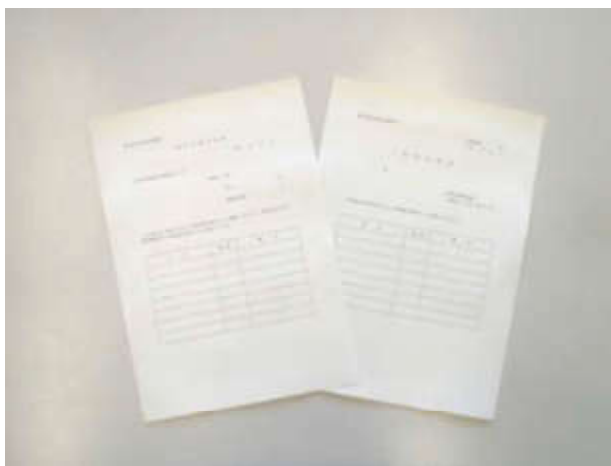
いしよくちゅう
衣食住

この度は石岡市ふるさと歴史館にご来館いただき、誠にありがとうございました。

さて、今回の企画展を通して市民の皆様にお伝えしたかったメッセージは「文化財は身近なもの」です。今回展示した資料は、100年前 150年前の私たちと地続きのご先祖様が実際に使い、近年まで個人や地域が受け継いできた道具たちです。今回の展示を通して、文化財は私たちと繋がっている身近な存在である、と感じていただければ幸いです。

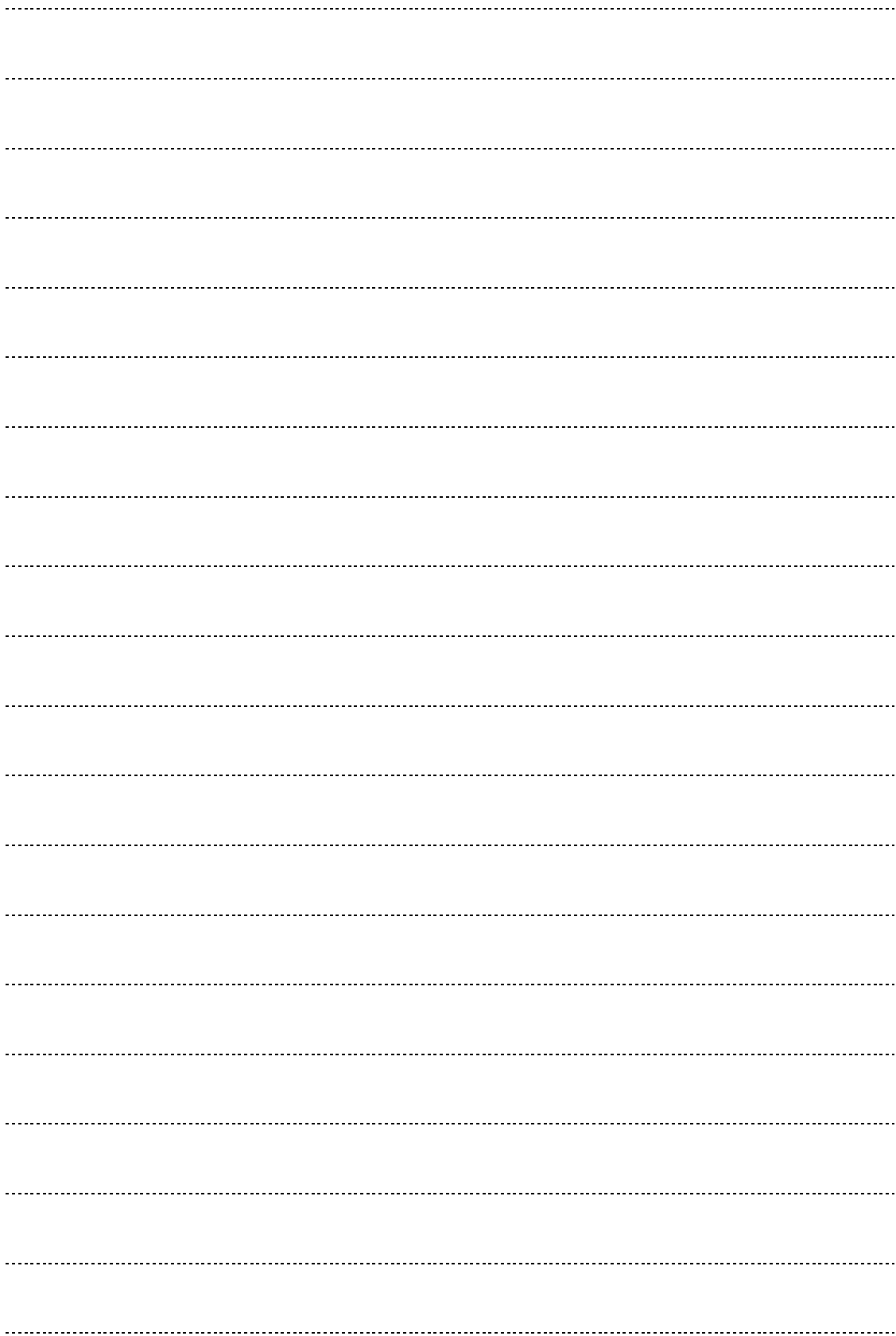
また、身近に残る文化財は、所有者の方にとっては当たり前すぎて何かの折に処分されてしまうことがあります。50年前の雑誌が出てきた、昔の商売道具を処分したい、そんな時は市教育委員会文化振興課にご相談いただくと、身近な文化財を守れるかもしれません。よろしく願いいたします

最後に、この場をお借りして貴重な資料をご寄贈いただきました方々に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。今後とも市の文化財行政にご協力いただければ幸甚です。



寄贈申請書・受領書

残した方がいいかと思ったら、文化振興課にご相談ください。



石岡市立ふるさと歴史館 第22回企画展

身近な文化財

—石岡市寄贈資料展—

令和2年7月1日発行

編集・発行

石岡市教育委員会 文化振興課

〒315-0195

茨城県石岡市柿岡 5680-1

TEL 0299-43-1111

石岡市立ふるさと歴史館

〒315-0016

茨城県石岡市総社 1-2-10

TEL 0299-23-2398